本庄村史資料

永井正治家文書（四）

神戸深江　生活文化史料館

目次

【戸　口】

1　人別送状ひな形　天保九年六月　1

2　宗門改につき横屋村宗右衛門書状　年不詳一月廿日　1

【寺　院】

1　寺組書上　庄田弥右衛門宛　享保五年四月一日　2

2　御神楽講帳　當番　永井喜平次所持　元治二年五月　3

3　神主就任請書ひな形（庄田弥右衛門宛）　年月不詳　10

4　稲荷社初午祭につき書状　年不詳二月一日　10

【大庄屋組財政】

1　村々上納割書上（前欠）　享保三年五月　11

2　狩人雇銀分担につき願　享保十二年閏一月廿八日　13

3　村々餅米間銀受取覚　享保十二年七月　18

4　日光社参につき勤番御用人馬賃割當　享保十三年八月廿六日　19

5　深江組雇人足人数書上　享保十五年八月　20

6　村々立會出銀割免　年不詳八月晦日　20

7　雇人足人数書上（大庄屋深江吉兵衛家木長右衛門他宛）　年不詳酉七月（享保？）　20

8　村方銀皆済覚　年不詳卯十月　21

9　代官御用そば調達につき書状（深江吉兵衛）　年不詳十月晦日　22

10　千石夫米並万入用銀米割賦　年不詳十一月十一日　22

11　村割米につき書状（大庄屋吉兵衛）　年不詳十一月十八日　23

12　飛脚賃につき篠原脇浜村宛書状　年月不詳　24

【村財政】

1　人足賄代等書上　年不詳二月二十四日　24

2　賄賃書上　深江役人宛　年不詳酉五月廿九日　25

3　大和屋新兵衛通　深江役人宛　年不詳酉五月　26

4　飛脚賃受取覚　年不詳七月二十八日　29
5　諸入用書上　八田屋利右衛門↓深江役人中　年不詳酉八月十二日　29
6　諸入用書上　深江屋宇左衛門↓深江村庄屋　年不詳八月廿六日　30
7　人足賄入用につき深江屋書状　年不詳九月二十六日　31
8　賄代等書上（深江村役人宛）　年不詳九月　31
9　覚（鴻池屋米受取覚）　年不詳酉十一月廿日　32
10　山城屋次作金子請取覚　深江役人宛　年不詳酉十一月十三日　33
11　人足賃銭につき差紙　年不詳十月四日　33

【二条詰米請取覚書】

1　二条詰米請取覚　年不詳酉十一月廿日　34
2　二条詰米請取覚　年不詳未十一月二十七日　34
3　二条詰米請取覚　年不詳未十一月廿五日　35
4　二条詰米請取覚　年不詳未十一月廿五日　35
5　御城米書上　年不詳十二月　36

【水　利】
1　正徳元年伏樋悪水樋書上写　年月不詳　36
2　大川普請割符につき書状　吉兵衛宛　年不詳十一月十二日　38
3　堀浚人足賃に付書上　年不詳三月廿四日　39

【田畑屋敷売買】
1　田地譲証文　天明九年一月　39
2　森村源兵衛田地譲渡証文　文化十四年九月　40
3　庄右衛門居宅売払につき書状　年月不詳　40
4　畑地見取場取戻出入控　嘉永四年六月　41

【金　融】
1　手形訴訟につき返答書　元禄七年十二月十一日　44
2　頼母子銀請取一札　文政七年七月　45
3　調達銀仕法書　文政七年　45

4 調達銀仕法 文政八年四月 48
5 質物差入証文 文政九年七月 54
6 質物差入銀子借用証文 文政九年十二月 55
7 銀子預り証文 文政十年七月 56
8 預り銀証文 文政十一年六月 57
9 預り銀証文 文政十一年十二月 57
10 連印預銀証文 文政十二年七月 58
11 銀子預り証文 文政十二年七月 58
12 質物差入一札 天保五年十二月 59
13 預ケ銀滞につき下済取斗願 天保七年八月 59
14 懇意貸取戻願訴状 嘉永四年 60
15 連判銀書上（打出村より） 年不詳卯極月廿八日 61
16 金子借用につき神田筑後守書状 永井喜平次宛 年不詳五月十日 62
17 借銀の件につき書状 吉次郎↓深江庄屋宛 年不詳五月廿八日 62
18 借用銀につき永井喜平次宛書状 年不詳九月十五日 63

19 借用につき書状　永井喜平次宛　年不詳十一月十五日　64
20 金公事につき書状　青木村仁左衛門喜平次　年不詳十一月廿四日　64

【海運漁業】

1 漁船新造買請願書　享保八年七月　65
2 船御改之帳　摂州兎原郡深江村　寛政十一年三月　66
3 漁師陣笠の件につき口上（前欠）　天保三年九月晦　68
4 船手形御用木につき書状　吉兵衛書状　年不詳十月廿一日　69
5 渡海船買取につき覚　庄屋吉兵衛　年不詳六月廿四日　70
6 廻船出帆差止願　年不詳午五月　70

【永井家財政】

1 大福帳　寛政八年一月　71
2 忌中見舞覚　安政四年四月　74
3 永井喜平次宛諸勘定書上　年不詳申十二月廿八日　77

4　米之通（酉とし）喜平次様（五、六、七、八月）　年月不詳　78

【人足米金等書上】

1　人数受取覚　年不詳酉四月十四日　81
2　銀札受納覚　白川殿内出役　年不詳亥五月十七日　81
3　米受取覚　年不詳子十月廿六日　82
4　払金覚　年不詳十一月十六日　82
5　酉年割銀覚　年不詳十一月　82
6　金銀銀札受取覚　年不詳十二月廿四日　83
7　米数書上　年月不詳　83
8　米数書上（後欠）　年月不詳　84
9　金高書状　年月不詳　84
10　銀子書上　年月不詳　84
11　覚（御割宿賄他）　年月不詳　85

【書　状】

1　村松一郎兵衛書状（永井吉兵衛宛）　年不詳三月廿四日　85
2　堀江六左衛門書状（深江吉兵衛宛）　年不詳四月二日　86
3　吉兵衛書状　年不詳卯月九日　87
4　米印調べ等につき書状　年不詳八月廿九日　87
5　五一郎殿御改につき吉兵衛書状　年不詳五月五日　88
6　永井庄左衛門宛書状　年不詳十二月一日　88
7　某書状（断簡）　年月不詳　89
8　深江吉兵衛につき書状　年不詳九月廿三日　89

人別送状ひな形

人別送一札之事

一、當村何屋何兵衛納屋何屋誰忰何ト申當戌何十歳ニ相成候者、此度其御丁内堺屋忠兵衛借屋銚屋善五郎方へ同親引取度旨申出候、依之右ハ罷差送申上於村内諸掛リ合等一切無之候間、自今以後ハ御丁内人別帳面ニ御差加江被下度、村方人別相除可申候。為後日人別送一札依而如件

天保九戌年

六月　何守殿御領分

何州何郡何村

庄屋　何左衛門印

大阪堂島吉庄弐丁目

御町役人中

宗門改につき横屋村宗右衛門書状

此間ハ御物遠罷在候彌御堅固可被成御座候珍重奉存候、此元無居ニ為申候、宗門御改別帳面拵等御宜敷御座候事と奉察候、然ハ寺社帳他領年季奉公人帳牛帳共御用之由持ち(カ)遣申候、御請取可被下候近日参上仕万々可申上候条早々申渡候

正月廿日　よこや　宗右衛門

深江　吉兵衛殿

寺組書上

四ケ寺組
親王寺
安楽寺
西恵寺
志光寺

四ケ寺組
西穏寺
明林寺
光明寺
栗玄寺

四ケ寺組
常土日村
常願寺
田中村
安倉寺
田辺村
常永寺
打出村
妙覚寺

四ケ寺組
正寿寺
無量寺
西林寺

覚浄寺

三ケ寺組
円光寺
浄称寺
法覚寺

弐ケ寺組
三条村
昭楽寺
石屋村
辻本角十郎

享保五子年四月初日

印形御取被成候

庄田弥右衛門様

（表紙）

元治弐年丑卯月

御神樂講帳

当番

御儀式

壱　錫徳利
　　洗米
　　若和布

是ゟ御膳引

弐　盃米椀

肴いかの木の免阿へ

三　中椀

四　同

五　食椀

肴濱焼

若可免取引ケ

御酒當さし

御膳

一酢少シ味噌入

鱠　か連(リ)き
　　いかの足
　　大なん

けんハとがらし

汁　ち さ
　　鰹ぶし

焼物　む路

煎物　いかなご

右之通ニ御座候以上

取持　善太郎
　　弥惣左衛門
　　徳右衛門

久右衛門

給仕人　四　人

茶はこび　四　人

当年御輿壱人ニ付

上　汁

一、五百三拾六匁　弐百六拾八匁也
上白弐石
清太郎渡

一、百三拾三匁五分五厘　酒片馬
岩田茂渡

一、弐〆三拾文　肴代
代三拾匁九合八厘　いろいろ

一、四拾五匁　いか弐十
〆七拾五匁九分八厘　市良兵衛
肴代

一、八百廿五文
代拾弐匁六分四厘　彦左衛門
いろいろ買物

一、三拾七匁七分五厘
〆五拾匁三分九厘

一、拾弐匁　蠟燭代
壱斤半
深山商店

一、五百廿五文　醤油代
代八匁壱厘　茂左衛門へ

三百八拾五文　伊兵衛へ
代五匁八分七厘塩物代拂

一、百拾文
代壱匁六分八厘又左衛門へ
拂

一、八百文　いり四斗
代拾弐匁弐分壱厘喜三郎
へ拂

一、壱〆三百文　上大こん
壱把
代拾九匁八分四厘

一、拾六匁五分　松木
四十四〆目

一、弐拾匁八分　とさふし
百三拾匁

一、三拾弐匁　濱焼弐枚

一、壱匁　飛脚ちん

一、五匁　由葉抔
壱丸

一、七百廿文　いかなご
六籠
代拾匁九分九厘

一、弐〆八拾文　竹の子
四〆目
代三拾壱匁七分四厘

一、八百文　柴代
代拾弐匁弐分壱厘

一、金弐歩　氏神
初米料
代四拾九匁壱分

一、百文　祈禱料

代壱匁五分三厘
又拾銅
六文　さいせん

一、金壱朱　神主
焼物料
代六匁壱分四厘

一、金百疋　久左衛門
席料
代弐拾四匁六分五厘

一、六匁　市良兵衛
祝儀

一、壱匁　東　床

一、壱匁　西　床

一、壱匁　六左衛門

一、壱匁　若　助

一、五分　門助

一、五分　小頭

一、百九匁　講中焼物料

〆壱〆百八拾八匁三分壱厘

内

弐百五拾四匁八分九厘寄銀

又百目　村方ゟ出銀分

〆三百五拾四匁八分九厘

ゟ　八百三拾三匁四分九厘

是ヲ四人割

壱人前

弐百八匁三分六厘宛

講中名前

仁左衛門

徳兵衛

茂左衛門

惣五郎

庄左衛門

彦左衛門

作治郎

源治郎

与兵衛

小右衛門

甚兵衛

善吉郎

善吉郎

常右衛門

角兵衛

権治郎

長左衛門

市右衛門

権兵衛

平右衛門
宗　七
久兵衛
弥次兵衛
太兵衛
忠左衛門
権左衛門
半三郎
九郎左衛門
玄　碩
喜三郎
惣左衛門
勘左衛門
忠右衛門
治左衛門
九郎兵衛
善兵衛
七郎兵衛
幸左衛門
治右衛門

利右衛門
冨五郎
藤兵衛
定五郎
善右衛門
新兵衛
与左衛門
吉右衛門
善左衛門
新左衛門
茂兵衛
仁右衛門
源兵衛
治兵衛
友三郎
又左衛門
友　八
六郎兵衛
善四郎
与次兵衛

五郎兵衛
孫右衛門
喜兵衛
仲右衛門
五郎左衛門
市郎兵衛
三郎兵衛
藤平治
藤左衛門
栄三郎
市郎右衛門
庄兵衛
徳右衛門
七兵衛
平次郎
新五郎
利兵衛
勝次郎
彦右衛門
権六

善一郎
伊兵衛
伊兵衛
清左衛門
与次右衛門
佐兵衛
治兵衛
新五兵衛
庄八
清右衛門
九右衛門
三右衛門
喜作
太兵衛
九兵衛
弥忠右衛門
重右衛門
仁兵衛
八郎兵衛
久右衛門

太郎左衛門
新右衛門
治兵衛
喜左衛門
孫右衛門
岩三郎
久四郎
甚右衛門
吉郎兵衛

今年休
徳左衛門

今年入講
八右衛門

同断
清五郎

庄屋
茂左衛門

年寄
善右衛門

同断
久左衛門

百姓代
惣五郎

同断
平治郎

御案内

庄屋
七度

年寄
五度

百姓代
三度

當番

喜平治

〃
久左衛門

〃
源左衛門

〃
市兵衛

（裏表紙）

永井
喜平治
所持

神主就任請書ひな形

差上申請負証文之事

一、摂州兎原郡何村天神〃稲荷〃神主誰儀ハ諸宗門慥ニ存候ニ付、此度私請人ニ罷立申候。御法度之宗門転之者之子孫ニ而茂無御座候。兼而被仰付候御制法急度相守社役等無滞為相勤可申候。尤邪法悪用為仕間敷候。此者之儀ニ付如何様之儀御座候共、拙者罷出急度可申明候、為後日請負証文仍如件

何村請人　誰

年号月日

庄田弥右衛門様

稲荷神社初午祭につき書状

昨日ハ御状被下置致拝見候拙者儀も昨日尼崎へ罷上御報も致延引候今日在稲荷様ニ初午御神事目出度奉存候志かし当ヲ日天気頼にて氏子参詣も無数可有之候と存じ今日拙者儀も社参仕立寄申様ニと被仰下殊ニ珍敷一物御用意之由忝奉存候然所当地無據用事御座候ニ付社参も致不仕残念ニ奉存候右為御断御報如此ニ候　以上

二月朔日

村々上納割書上（前欠）

同断
一、米弐拾七俵　石屋村
同断
一、米弐拾俵　高羽村
同断
一、米八俵　八幡村
同断　都賀庄
一、米弐拾俵　小村
同断
一、米三拾俵　河原村
同断
一、米五俵　森村
同断
一、米弐拾俵　大石村
夏秋定
一、米五俵　味泥村
同断
一、米三拾弐俵　原田村
同断
一、米弐拾八俵　上野村
同断
一、米八俵　中村
同断
一、米五拾俵　生田村
同断
一、米拾六俵　坂本村
小以三百拾六俵
是ハ当戌暮より未年迄十年賦、壱ケ年ニ三拾一俵
弐斗四升宛
合七百五拾三俵
是ハ当戌暮より未之年迄十年賦壱ケ年ニ
七拾五俵壱斗弐升宛
右之上納割
七拾五俵壱斗弐升　戌年上納夏秋定共
七拾五俵壱斗弐升　亥年上納右同断
七拾五俵壱斗弐升　子年上納右同断
七拾五俵壱斗弐升　丑年上納右同断
七拾五俵壱斗弐升　寅年上納右同断

七拾五俵壱斗弐升　卯年上納右同断
七拾五俵壱斗弐升　辰年上納右同断
七拾五俵壱斗弐升　巳年上納右同断
七拾五俵壱斗弐升　午年上納右同断
七拾五俵壱斗弐升　未年上納右同断

右之通去酉御年貢之内御延米預リ申所実正御座候。兼々奉願候通今度夏秋定候十歳賦ニ被仰付難有奉存候。然上ハ御定之通年々無相違上納可仕候。若於組中不斗儀出来仕上納相滞候ハヽ大庄屋組切ニ相調帳面急度差上可申候。御連判如件。

享保三戌年五月　大庄屋深江村
~~吉兵衛~~
深江組打出
~~庄屋~~
~~年寄~~
~~惣百姓代~~
大庄屋高羽村
三右衛門
高羽組村々
~~庄屋~~
~~年寄~~
~~惣百姓代~~

~~八木庄兵衛殿~~
~~川村八郎右衛門殿~~

大庄屋深江村
吉兵衛
深江組打出村庄や
源左衛門
同村年寄
利兵衛
同断
源四郎
同村惣百姓代
善右衛門
芦屋村庄や
太右衛門
同村年寄
八左衛門
同断
平助

同村惣百姓代
九兵衛
三条村庄ヤ
源五
同村年寄
久兵衛
同断
四郎兵衛
同村惣百姓代
六兵衛
森村庄ヤ
唯七
同村年寄
左五衛門
同断
三左衛門
同村惣百姓代
角兵衛
中野村庄ヤ
甚介

同村年寄
与衛門
同村惣百姓代
善吉
小路村庄ヤ
安兵衛
同村年寄
甚兵衛
同村惣百姓代
七兵衛
北畑村庄ヤ
善太郎
同村年寄
善右衛門
同断
彦左衛門
北畑村惣百姓代
七兵衛
田辺村庄ヤ
六郎兵衛

同村年寄　庄左衛門
同断　次左衛門
同村惣百姓代　太右衛門
岡本村庄や　十郎右衛門
同村年寄　君大夫
同断　庄左衛門
同村惣百姓代　勘左衛門
田中村庄や　九兵衛
同村年寄　孫右衛門
同断　安左衛門

同村惣百姓代　利右衛門
野寄村庄や　宗官
同村年寄　傳三
同断　伊太夫
同村惣百姓代　久兵衛
横屋村庄ヤ　三右衛門
同村年寄　忠兵衛
同断　七右衛門
横屋村年寄　五郎左衛門
同村惣百姓代　平右衛門

西青木村庄ヤ
新兵衛
同村年寄
太郎兵衛
同村惣百姓代
安兵衛
東青木村庄ヤ
平七
同村年寄
左次衛門
同断
清兵衛
同村惣百姓代
孫左衛門
津知村庄ヤ
半四郎
同村年寄
太兵衛
同村惣百姓代
治佐衛門

深江村年寄
十右衛門
同断
弥三左衛門
同断
仁左衛門
同村惣百姓代
介左衛門

八木庄兵衛殿
川村八郎右衛門殿

狩人雇銀分担につき願

以口上書申上候

一、近年猪大分出、作物荒難儀仕候ニ付、狩人召抱申度奉存候得ハ、困窮之百姓ニ而御座候者、去午年御手宛御願申上候所願之通御手宛被成下難有奉存狩人召抱申候処当二月切ニ而罷帰申候未猪も大分荒申迷惑ニ奉存候者当年も召抱申度奉存候、然所田辺村之儀山方一烈之村ニ而御座候依去午年狩人給銀割賦等出シ不被申候、又々今年も除可申候付小路村も田辺村除き可申と被申候ハヽ除可申由御座候、然上者相残村々ニ而狩人を召抱候儀難成奉存候、右之仕合御座候者迷惑奉存候、乍御苦労御了簡奉願候以上

打出村庄屋
享保十弐未年閏正月廿八日　善右衛門㊞
同村年寄
源　四　良㊞
同断
平　四　良㊞

芦屋村庄屋
源　六㊞
同村年寄
仁　兵　衛㊞
三条村庄屋
源　五㊞
同村年寄
久　兵　衛㊞
同断
四郎兵衛㊞
森村庄屋
久左衛門㊞
同村年寄
左五右衛門㊞
同断
嘉　兵　衛㊞
中野村庄屋
甚　助㊞
同村年寄
与右衛門㊞

同断
重兵衛㊞
北畑村庄屋
善太郎㊞
同村年寄
善左衛門㊞
同断
彦左衛門㊞
岡本村庄屋
庄左衛門㊞
同村年寄
喜平次㊞
同断
善六㊞
野寄村庄屋
宗官㊞
同村年寄
傳兵衛㊞
同断
伊太夫㊞

大庄屋深江
吉兵衛殿

村々餅米間銀受取覚

請取申餅米間銀之事

一、銀弐拾七匁九分壱厘　芦屋村
一、銀四分五厘　東青木村
一、銀五拾壱匁㊞八分五厘　魚崎村
一、銀四拾九匁㊞七分六厘　横屋村
一、銀拾七匁壱分九厘　田中村
一、銀三㊞分九厘　小路村
一、銀拾㊞弐匁弐分九厘　三条村

〆百五拾九匁八分四厘

右は午年餅米納不足間銀石ニ付九匁宛之御積りを以間銀被下置、慥ニ請取申処実正ニ御座候、為後日請取判形仍如件

芦屋村庄屋　源六㊞
三条村庄屋　源五㊞
小路村庄屋　幸助㊞
田中村庄屋　九兵衛㊞
横屋村庄屋　宗右衛門㊞
魚崎村庄屋　平藏㊞
東青木村庄屋　平助㊞

享保十二未年七月

大庄屋深江　吉兵衛殿

日光御社参ニ付彼地御勤番御用

人馬賃銀割賦

高五千弐百弐拾石三斗弐升六合

一、銀弐貫五百三拾八匁六分四厘

高百石ニ付四拾八匁六分三厘宛

右之通立会無高下致割賦候上納之儀ハ、追而日限可申し入候。以上。

享保十三申年八月廿六日

原田　佐左衛門㊞

神崎　吉左衛門㊞

瓦林　宇兵衛　㊞

塚口　利右衛門㊞

西宮　六左衛門㊞

深江　吉兵衛　㊞

深江組　庄屋中

上之嶋　重左衛門㊞

深江組雇人足人数書上

覚

一、人足百七拾四人　　深江組

右之通不残雇人足ニ而相勤申度村々ゟ奉願候
願之通被為仰付被下候ハヽ、難有奉存候　以上

享保十五年戌八月　　大庄屋深江
吉兵衛

稲垣次郎左衛門様
雪傳左衛門様

村々立会出銀割免

覚

一、五拾壱匁六分

右者送者参會及申割リ付仕候間御出銀可被成候　以上

八月晦日　　立會　三条村
小路村
深江村　　青木村

雇人足人数書上

覚

一、人足百七拾四人　　深江組

右之通雇人足相究申候、御用次第御請取被遊可
被下候　以上

大庄屋深江
酉七月　　吉兵衛

家木長右衛門様
稲垣次郎左衛門様

卯十月

村方㊞

喜平次殿

村方銀皆済覚

覚

子十二月差引残　　村通分

一、壱貫三百七拾弐匁八歩七厘

丑年分

此分百六拾四匁七分

寅年分

〃　百六拾四匁七分

卯十一年分

〃　百三拾七匁弐分

〆

一、六百七拾四匁四分九厘　　未進

此分六拾七匁四分入　　十ヶ月分

〆

合弐貫五百八拾壱匁四分壱厘

内

壱貫三百目

〆壱貫弐百八拾壱匁四分壱厘　　用　捨

右之通無村入相済候也

代官御用そば調達につき書状

寒気ニ候得共弥御無事可被成御座珍重奉存候然ハ御代官様より蕎麦御用之由御誂被成候其村ニ御座候バ乍御六ヶ敷御調可被下候有之候ハヽ四五斗程入用ニ御座候若無之候バ少々成共調申度御座候此方へ為持被遣可被下候　以上

十月晦日　　深江　吉兵衛

芦屋村
源六様

（端裏書）
「尚々有無之義御吟味被成御知らせ可被下候
以上」

享保十二未年千石夫米並高入用銀米割賦

高四千弐百六拾五石九斗三升八合

一、米拾五石三斗五升七合　　千石夫米
高五千弐百拾七石三斗八升弐合

一、同三斗壱升三合　　萬入用
〆拾五石六斗七升

内
拾四石四斗　　千石夫四人江渡
入残壱石弐斗七升　　出分
高右同断

入ニ銀百七拾弐匁壱分七厘　　萬入用

右之通立會無高下致割賦候、来ル極月十日迄ニ、銀米共ニ上之嶋重左衛門方江御渡シ可被成候以上

十一月十一日

原田　佐左衛門㊞
神崎　吉左衛門㊞
瓦林　宇兵衛㊞

塚口　利右衛門㊞
西宮　六左衛門
御用ニ付代行
深江　吉兵衛㊞
上之嶋　重左衛門㊞

深江組
庄屋中

村割米につき書上

口上

一、先日其元様より森村御村米百俵村わり御申遣候則手前へ納リ申候筈ニ御座候所ニいまた渡リ不申候、近日早々納リ申様ニ被仰付可被下候、只々入用米ニ御座候バ如此御座候　以上

十一月十八日　西宮ゟ

大庄屋深江村　小村之中

吉兵衛様　源兵衛

飛脚賃につき篠原脇浜村宛書状

覚

一、七匁　飛きやくちん

三ケ村

壱ケ村弐匁三分四厘つゝ

右ハ当村より取替置申候間壱ケ村弐匁三分四厘つゝ此ものに御渡シ可被下候右御願申上候

深江村

深江村

篠原村　脇濱村

「篠原村

「脇濱村

人足賄代等書上

覚

二月廿四日

一、弐匁八分　駕人足　酒合

同　夕　壱

廿五日

朝　壱

昼　三

一、壱匁四分　上酒

夕　三

一、六分　上酒

廿六日

朝　三

昼　三

夕　三

廿七日

朝　五

壱匁三分　上ゝ酒御合

昼

一、弐匁八分　上〻酒
〆廿七賄　御合
代三十弐匁四分
仮〆八匁九分

一、三十目　割　二
三十目

〆百壱匁三分
外ニ　弐十文
遠見割
二月　七拾文
同　人足かし
〆九十文

木□屋

深江村
御役中様

賄賃書上
覚

一、三拾弐匁四分　廿七賄
〆
酉五月廿九日

西嶋屋
新兵衛

深江村
御役人様

大和屋新兵衛通

酉五月前　　大和屋

通　　新三郎㊞

深江村

御役人様

三月十日朝

一、壱匁弐分　△弥兵衛様

中

一、壱匁弐分　△同人様

四、五、六、七、日

一、四匁　△同人様代

八日夕

一、壱匁弐分　△右同人様

九日朝

一、壱匁弐分　△同人様

八日分

一、壱匁五分　△御酒入用

十五日夕

一、壱匁弐分　甚右衛門様

十六日朝

一、壱匁弐分　右同人様

中

一、壱匁弐分　右同人様

夕

一、壱匁弐分　右同人様

十七日朝

一、壱匁弐分　右同人様

〃

一、壱分三厘　わらんじ壱足

十八日朝

一、壱匁弐分　仲右衛門様

十九日中

一、弐匁四分　甚左衛門様　彦左衛門様

〃

一、壱匁　同人様代

廿日夕
一、壱匁弐分　仲右衛門様
〃
一、壱匁　上酒代
廿壱日朝
一、弐匁四分　弥兵衛様　仲右衛門様
廿弐日夕
一、壱匁弐分　甚右衛門様
廿三日朝
一、壱匁弐分　同人様
廿六日中
一、三匁六分　喜平次様　彦左衛門様　源三郎様
〃
一、三分　源三郎様　掛り出ゆ代
〃
一、三分　彦左衛門様　掛り出ゆ代
〃
一、二分六厘　おくり駄賃　喜平次様　源三郎様
十七日夕
一、壱匁弐分　仲右衛門様
十八日朝
一、壱匁弐分　同人様
〃
一、三分　梅屋代行　出ゆ代
廿七日中
一、弐匁四分　△喜平次様　弥兵衛様　御子息様
廿八日中
一、壱匁弐分　△弥兵衛様　御子息様
廿九日中
一、壱匁弐分　△同人様
〃
一、三分　△出ゆ代
〃夕
一、三匁六分　△忠太夫様　弥兵衛様
四月一日中
一、壱匁弐分　△弥兵衛様
〃
一、壱匁　△代人
〃

一、三分　△書物代
二日中
一、壱匁弐分　△同人様
十三日中
一、弐匁四分　喜平次様外壱人
〃
一、七匁八分　御酒入用
十八日夕
一、壱匁弐分　魚市様
十九日朝
一、壱匁弐分　同人様
廿六日中
一、壱匁弐分　喜平次様
廿七日夕
一、壱匁弐分　甚衛門様
廿八日朝
一、壱匁弐分　同人様
〃中
一、弐匁四分　同人様
四月廿日中　喜平次様

一、弐匁四分　喜平次様
夕　仲右ヱ門様
一、弐匁四分　同人様
一、壱匁　御酒
廿一日中
一、三匁六分　幸右ヱ門様
喜右衛門様
仲右衛門様
一、壱匁　仲右衛門様
夕　茶代
一、三匁六分　同人様
廿二日朝
一、三匁六分　同人様
而
一、弐匁四分　喜左衛門様
仲右衛門様
一、七匁五分　御奥用
九十四匁六分九厘

飛脚賃受取覚

覚

一、八匁四分　飛脚ちん

右之通慥ニ受取申候　以上

七月廿八日

山城屋

次　作　㊞

深江村

御役人中

諸入用書上（八田屋利右衛門）

深江村

御役人中様

濱屋

太三郎様掛リ

一、三匁六分　太三郎様

飯代

一、三匁六分　附添様

飯代

一、八匁五分　店方人足

賄料

一、四分壱厘　紙代

己リ合

〆拾六匁

壱分壱厘

酉八月十二日

八田屋

利右衛門㊞

諸入用書上（深江屋宇左衛門
深江村庄屋）

覚

一、八匁　御旦那様
　壱分六厘　上下賄割

一、三拾目　四ヶ所在所頭
　壱分五厘　引人足賄割

一、九拾三匁　御村方賄
　六分

一、拾五匁　御酒肴
　六分

一、弐匁六分　外役人用
　一切入用

〆百五十三匁
　四分六厘

八月廿六日

深江屋
宇左衛門

深江村

御庄屋様

濱屋太三郎様分

覚（人足賄入用につき深江屋書状）

一、七拾弐匁　四ヶ所在所頭
　　三分　引人足賄割
　　一切諸入用

〆

九月廿六日　深江屋
　　卯左衛門㊞

深江村
　御庄屋様
　庄五郎様

賄代等書上（深江村役人宛）

覚

九月十八日
　夕　五
十九日　朝　五
　　昼　六
　　夕　四
廿日　朝　五
　　昼　五
　　夕　四
廿一日　朝　四
　　昼　四
　　夕　四

〆四拾六賄
　代七拾三匁
　　六分

一、三十目　割
一、廿匁也　同
一、廿匁也　同

〆　百四十三匁
　　六分
外四十八匁　遠見ちん
九月
　　木□や㊞
深江村
御役中様

覚（鴻池屋米受取覚）

一、御米九石五斗也　但シ五斗弐升三合
一、〃正十七石八斗八升　二條御藏詰分
　　難波御藏詰分
　　但シ上荷舟へ積替
右之通慥受取申候。已上
酉十一月廿日
鴻池屋
深江村　彦左衛門㊞
御役人衆中様

覚（山城屋次作金子請取覚）

一、銀四分也　　筏師賃
　　割合

右之通慥ニ而合申候　以上

酉十一月十三日　山城屋
　　次作㊞

深江村
御役人中

人足賃銭につき差紙

一、百五拾文
　さし紙人足賃銭

此人ニ御渡シ被下候

十月四日

深江村
御庄屋様

八田屋
利右衛門印

二条詰米受取覚

覚　　但シ五斗一升六合
　　五斗弐升

一、御米百十俵ト
　　三斗也

右ハ二條御詰米ノ内慥受取リ候。已上。

酉十一月廿日　　鴻池屋　彦左衛門㊞

深江村
御役人衆中様

二条詰米受取覚

覚　　但シ五斗一升七合
　　五斗弐升壱合

一、御米百八俵也

右ハ二條御詰米ノ内慥受取申候已上

未十一月廿七日　　鴻池屋
　　彦左衛門㊞

深江村
御役人衆中様

二条詰米受取覚

覚

一、御米六拾四俵也

右ハ二條御詰米之内慥受取申候已上

未十一月廿五日　　鴻池屋

深江村　　彦左衛門㊞

御役人衆中様

二条詰米受取覚

覚

一、御米六拾俵也

右ハ二條御詰米ノ内慥受取申候已上

未十一月廿五日　　鴻池屋

深江村　　彦左衛門㊞

御役人衆中様

御城米書上

覚

一、御城米五拾八斗
永かえ
三拾五匁
弐歩八厘

十二月節(カ)
御村方様　五郎兵衛

正徳元年伏樋悪水樋書上写

覚

字をとり
一、伏樋
右ハ廿五年以前出来候　内法　下六寸　上七寸
年数相知不候廿五年以前修覆被成候

字さく地
一、伏樋　内法　下七寸　上八寸
右ハ出来候年数相知不廿三年以前ニ修覆
被成候

同所
一、立樋　長四尺　内法　四寸
右同断拾弐年以前修覆被成候

字東長井
一、悪水抜　長三間半　内法　下壱尺七寸　上壱尺八寸
右ハ出来候年数相知不申候四拾八年以前ニ
修覆被成候

字西永井
一、悪水抜　長三間壱尺　内法　下壱尺六寸　上壱尺八寸

右ハ出来候年数相知不申候三拾七年以前ニ
修覆被成候

字東堤

一、悪水抜　長五間半　内法下弐尺上弐尺弐寸

右ハ出来候年数相知不申候拾七年以前ニ修
覆被成候

字樂王寺

一、悪水抜　長七間半　内法下壱尺七寸上壱尺八寸

四拾四年以前出来　八年以前修覆「　」（貼紙）被成
候

字こちら田

一、悪水抜　長三間半　内法下壱尺上壱尺弐寸

右出来候年数相知不申候四拾六年以前修覆
被成候

字大日前高橋

一、悪水抜　長三間半　下壱尺弐寸上壱尺四寸

右ハ出来候年数相知不申候拾弐年以前ニ修
覆被成候

字村新田

一、悪水抜　長五間半　下弐尺五寸上弐尺八寸

右ハ承應二巳年出来又三年以前修覆被成候

字西長井新田

一、悪水抜　長三間半　下壱尺五寸上壱尺八寸

右ハ慶安五辰年出来又十五年以前ニ修覆被
成候

字東長井新田

一、悪水抜　長四間半　下壱尺七寸上壱尺八寸

右ハ慶安五辰年出来三拾五年以前修覆被成
候

正徳元卯年七月十三日　庄屋
年寄

大川普請割符につき書状

深江　茂平太

吉兵衛様

御手紙致拝見候如仰其後ハ久敷得御意不申御物
遠ニ奉存候彌御堅勝ニ被勤被成候由目出度珍重
奉存候拙者モ病気快参仕候得共養生仕未尼崎江
も得罷出不申候併近日罷出申度様ニ存候処咳気
頃日仕養生致シ度罷在候。
一、去ル秋京都御奉行様より御觸出有之候大川筋
御普請御入用銀五畿内割ニ付被仰付候ニ付村高
書付差上申候就夫以後尼崎御郡代様方より江戸
御勘定様方より之御云付写被下置候此御紙面ニ
てハ改新田高も割ニ付銀掛リ申由相見へ申ニ付
尼崎へ御窺被成候処成程新田高へも掛リ申処御
座候由其上地廻リ辺仲間中御聞合被成委細被仰
聞置承知申候就夫一組より庄屋壱人宛新田高之
帳面相認京都へ被差出候由当組茂帳面認其元様
御組之庄屋衆と御同道仕候様ニ可仕候間兼而左
様ニ思召可被下候其内以出状可得御座候条早々
御報如此候以上

十一月十二日　　高津

堀浚人足賃に付書上

御堀浚人足賃銀六拾八匁五分うけ取様被申下候御うけ取可被下候且又大覚寺奉加帳ニも又御うけ取可被下候一所ニ御戻シ被成可被下候御銘々様へ別紙ニ不得御意候間宜御心得被成可被下候

三月廿四日　　よこや　宗左衛門

喜平治様

田地譲証文

譲リ渡申田地之事

字

村新田卯新田

一、下々田弐畝㊞弐歩　　壱斗六舛六合

右田地代々我等所持ニ御座候処、此度無拠要用ニ付、代銀三百目㊞ニ譲渡申所実正也。然ル上ハ右田地ニ付、脇より何之差構無御座候、若差構有之者御座候ハヽ、請人罷出急度埒明可申候、為後日田地譲証文仍而如件

譲主　与次右衛門㊞

請人　与右衛門㊞

庄屋　源次郎㊞

天明九酉正月

喜平次殿

森村源兵衛田地譲渡証文

田地譲渡申証文之事

字泉家坪

下田　壱反三畝四歩　　分米壱石四斗四升五合

右ハ当村御田地出作仕リ居リ申候処、此度無拠要用之義㊞付、代銀㊞三百目ニ譲渡申処実正也、然上ハ右田地ニ付脇より差構無御座候、万一違乱妨申者有之候ハヽ、請人罷出急度埒明可申候、為後日田地譲渡証文依如件

森村　源兵衛　㊞

文化十四年　　請人　清兵衛　㊞

丑九月　　庄屋　作右衛門㊞

米屋

喜平次殿

庄右衛門居宅賣払につき書状

口上

□渡御尋申上候然ハ庄右衛門居宅並藏とも売払申候様申来リ下拙奥印之儀相頼ミ候ニ付尊公様之御年貢之儀ハ庄兵衛方ニ引請候趣申候間右之通ニ御座候ニ付御尋申上候此段不取敢御返事御聞せ可被下候先ハ取急キ如此ニ御座候

喜兵衛

上

下

阿さ茂様

貴下

尚此状裏へ御返事御聞せ可被下候

御仰越候趣忝承印仕候先刻庄屋参リ年貢書附持帰リ慥ニ御方茂銀子相渡可申候様申候ニ付如才も有之間敷候ゆへ宜敷御取計可被成下候先ハ御答へ申上候草々以上

（表紙）

嘉永四戌年

六月

畑地見取場取戻シ出入控

乍恐急訴御願奉申上候

当御代官所

摂州兎原郡深江村

願人　惣左衛門

畑地見取場

取戻シ出入

相手　冨五郎

右相手之もの去ル申九月ニ慥成返証文ヲ以畑地幷見取場礼銀拾弐貫目譲渡置候處、当春已来ゟ相戻シ呉候様段々懸合および候得共、彼是申延シ埒明不申尤植附旬御座候得ハ私方ゟ植附仕置右礼銀調達仕返銀致シ度候へ共、相手請取呉不申夫ニ付而ハ、本紙証文相戻シ呉不申右約定之通リ致呉不申候ニ付最早下ニ而可仕候様無御座候ニ付、乍恐奉願上候何卒右相手之もの御召出被為成下被候上、右約定之通リ元へ可致様被為仰附被下候ハヽ、廣大之御慈悲難有仕合ニ奉存候以上

嘉永四戌年六月二日

惣左衛門　㊞

前書之通相違無御座候様

相聞候ニ付乍恐奥印仕候

庄屋　庄左衛門

川上金吾之助様

御役所

如斯訴出間村役人立會可済ミ滞儀有之ハ返答書、

いたし来七日双方村役人差添罷出可對決若不来
おゐてハ可為越度もの也
六月二日
川　金吾助　印

証文写し奉差上候控
譲り渡申畑地返り証文之事

字休弥
一、下々畑　三反三畝歩　分米九斗九升
同所
一、下々畑　九畝拾歩　分米五斗六升
分米合壱石五斗五升
反別〆四反弐畝拾歩
但し四方北ハ休弥畑地　堤限り
西ハ高橋川東堤限り
南ハ潮手堤限り
東ハ村持畑地限り
三方潮手堤松付生立不残有姿儘
一、潮手堤　五畝歩　見取壱斗弐升

右畑地並ニ見取場共此度我等方へ為礼銀拾弐貫目
譲り請申處実正也、然上ハ当申年九月〆丸拾ケ年
ニ相定右年限中ニ銀子調達返銀有之候ハヽ右畑地
素々江差戻可申約定ニ御座候、若外方へ譲り渡シ
候儀ハ決而致間敷候為譲り返一札仍而如件
嘉永元申年
九月　岡田屋
冨五郎
江戸屋
惣左衛門殿
右之通り写奉差上候　以上
六月二日
谷町
御役所

乍恐申上
一、當村宗右衛門〆私相手取御畑地取戻出入當月二
日ニ願上昨七日對決之上厚御利解為　仰聞奉恐入
然ル處右畑地之儀ハ元銀ニ百廿匁相増請取素々へ

差戻シ可申約定ニ而内済對談仕依之右江渡申来ル
十二日迄乍恐御日延御猶豫奉願上候、何卒此段御
聞済ニ為成下候ハヽ難有仕合ニ奉存候以上

摂州兎原郡深江村　　冨　五　郎
　　惣左衛門
頭百姓□代
〃〃　喜　平　次
付添頭百姓　　弥　兵　衛
谷町
御役所

摂州兎原郡深江村　　惣左衛門
　　病気ニ付
　　喜　平　付
　　冨五郎
　　病気ニ付
　　安　　次
付添頭百姓
　　喜　平　次

乍恐済口御断

一、當村冨五郎相手取当月二日畑地見取場取戻シ出
入奉願上候儀、同七日對決之上厚御利解被為仰聞
奉恐入依之右畑地之儀ハ、元銀拾弐貫目場銀百弐
拾匁相渡元へ請取可申約定ニ而取渡中昨十三日迄
奉願上候所無相違取渡仕候處以来双方無申分出入
相済申候、偏ニ威光与奉難有奉存依之乍恐済口御
断奉申上候、何卒御聞済被為成下候ハヽ難有奉存
候　已上

手形訴訟につき返答書

乍恐返答書ヲ以御訴訟申上候

私弟摂州深江村次兵衛と申者ニ而御座候

一、私弟ハ元来酒屋とうしを仕罷有候所に拾三年以前ニ茨木屋六兵衛、灰屋清左衛門と申須被申候者能酒之かシ加ぶ有之候間、諸事入用此方ゟ相渡シ可申候間、酒造リ候ハ、可然と両人被申候ニ付、酒ヲ造リ申候、其節茨木屋六兵衛方ゟ米を買又ハ酒も拂諸事支配致給申候而算用仕候ヘバ私ニ五百八拾目引負有之候間手形可致と被申候、私弟ハ無筆者ニ而算用も不存候ヘバ帳面改申事も無御座候故六兵衛之申候通則手形仕申候、然共私給銀ハ取不申剰大方之損銀を引負候ヘバ可済様無御座候ニ付、六兵衛被申候ハ兎角奉公ニ参候而引負銀相済シ候へと被申候ニ付、私も迷惑ニ存候へ共六兵衛指図ヲ以伊豫之国江とうじニ参給銀三百目取候間則、其銀を六兵衛ニ相渡シ残る所者私世帯仕候諸道具共不残六兵衛方ニ取被申引負銀ハ相済シ給候、其節私手形を戻シ給候へト申候へハ致紛失尋候へ共見江不申之由被申候、私六兵衛所ゟ酒とうじニ参、諸道具も相渡シ申候上ハ出入無之と被申候ニ付其通ニ仕在所ニ引込請作日用取仕渡世を送リ罷有候御事

右之通ニ御座候而拾弐年以来何之沙汰も無御座候所ニ只今ニ至リ六兵衛何と被存候哉前之右手形を以御訴訟申被上何共迷惑ニ奉存候、然所ニ六兵衛方ゟ度々催促被付其上銀子相済シ不申候ハヽ　御公儀様江可申上候様ニ被申此儀何共迷惑ニ存候故在所ニ而出奉公之口を聞直銀弐拾目前給ニ借是ニ而近々他言致候へ共一圓埒明不申候ニ付何共迷惑ニ奉存候

乍恐御慈悲之上六兵衛得心仕候様ニ被為仰付被下候ハヽ難有可奉存候　已上

摂州深江村

次　兵　衛㊞

元祿七年戌

十二月十一日

御奉行様

頼母子銀請取一札

一札之事

一、文政五年午七月手前始リ三百五拾目頼母子其元殿御名宛之分、此度我等銀子入用ニ付、差操を以其儘に我等共江譲リ受則當申七月私共江頼母子銀慥ニ請取㊞申候、右代リ銀之儀同頼母子之内七郎左衛門名宛ニ致有分七郎左ヱ門名前借請候得共実㊞ハ弟松次郎分ニ無相違御座候、向後ゟ其元名前之分ハ、弟松次郎掛送リ可申候、松次郎名宛分ハ未不取身之分ニ付其元より御掛ケ被下御勝手ニ御取可被下候、其筋一言之故障申間敷勿論頼母子人数之内江も此段致披露置申候

為後日一札依而如件

譲リ受主　清　藏㊞

文政七　申七月　証人　庄兵衛㊞

材木屋　善　吉　殿

（表紙）

文政七年

仕　法　帳

定

一、此度年賦調達銀主人数六拾人と相定御壱人前出銀並渡方左ニ記シ有之事

一、毎年正、五、九月右三ケ度ニ致集會可申事

一、六拾人之内三十人者引札並入札を以左之通相渡可申候尤残銀之儀者預リ置左之通割戻シ可申候事

一、入札引銀之儀者三會目より後會毎ニ惣御人数江割渡シ可申候事

一、當日御出席之御方江ハ為菓子料銀三匁宛差出シ可申候尤御棄之御方江ハ為御膳料銀壱両宛差出可申候事

一、当日午の刻より御出席可被下候者廉抹之膳飯差出シ可申事

銀預リ

世話人

初會

一、銀八百目渡　掛銀百五拾目

二會

一、右同断　同

三會

一、入札　同

四會

一、銀壱貫目渡　同

五會

一、入札　同

六會

一、銀壱貫目　掛銀百三拾五匁

七會

一、入札　同

八會

一、銀壱貫三百目渡　同

九會

一、入札　同

十會

一、銀壱貫六百目渡　同

十一會

一、入札　掛銀百弐拾目

十二會

一、銀壱貫八百目渡　同

十三會

一、入札　同

十四會

一、銀弐貫壱百目渡　同

十五會

一、入札　同

十六會
一、銀弐貫三百目渡　掛銀百五匁
十七會
一、入札　同
十八會
一、銀弐貫五百目渡　同
十九會
一、入札　同
廿會
一、銀弐貫七百目渡　同　多九百匁也
廿壱會
一、入札　掛銀九拾目
廿弐會
一、銀弐貫九百目渡　同
廿三會
一、入札　同
廿四會
一、三貫五拾目渡　同
廿五會
一、入札　同

廿六會
一、銀三貫三百目渡　掛銀七拾五匁
廿七會
一、入札　同
廿八會
一、銀三貫五百目渡　同
廿九會
一、入札　同
三十會
一、銀三貫七百目渡　同

調達銀仕法

定

一、此度年賦調達銀主人数六十人と相定御壱人前出銀並渡シ分左ニ記シ可申事

一、毎年正、五、九月右三ヶ度致集會可申事

一、六十人之内三十人引札並入札を以左之通相渡可申候、尤残銀之儀ハ預リ置左之通割戻可申候

一、入札引銀之義ハ三會目ゟ後會毎ニ御人数江割渡シ可申事

一、當日御出席之御方へハ為菓子料銀三匁宛差出シ可申候、尤御不参之御方へハ為御膳料銀壱匁宛差出可申事

一、当日午刻よ里御出席可被下候廉抹之酒飯差出シ可申事

銀預リ

世話方

初會		
一、銀八百目渡	掛銀	百五拾目
弐會		
一、右同所	同	
三会		
一、入札	同	
四会		
一、銀壱貫目渡	同	
五会		
一、入札	同	
六会		
一、銀壱貫百目渡	掛銀	百三拾五匁
七会		
一、入札	同	
八会		
一、銀壱貫三百目渡	同	
九会		
一、入札	同	
十会		
一、銀壱貫六百目渡	同	

十一会
一、入札　掛銀　百弐拾匁
十二会
一、銀壱貫八百目渡　同
十三会
一、入札　同
十四会
一、銀弐貫百目渡　同
十五会
一、入札　同
十六会
一、銀弐貫三百目渡　掛銀　百五匁
十七会
一、入札　同
十八会
一、銀弐貫五百目渡　同
十九会
一、入札　同
廿会
一、銀弐貫七百目渡　同

廿一会
一、入札　掛銀　九拾匁
廿二会
一、銀弐貫九百目渡　同
廿三会
一、入札　同
廿四会
一、銀三貫五拾目渡　同
廿五会
一、入札　同
廿六会
一、銀三貫三百目渡　掛銀　七拾匁
廿七会
一、入札　同
廿八会
一、銀三貫五百目渡　同
廿九会
一、入札　同
三十会
一、銀三貫七百目渡　同

右之通相渡シ可申候三十會目御当リ之方へハ別段為反物判金子弐匁宛相祝候而進覧可申事

但　残銀之義ハ勘定元へ預リ置年銀相立候後御壱人分銀三貫八百目宛無相違相渡シ可申事

右之通無相違取斗可申候将又我等共之内退役致候ハヽ後役之者一統引請堅ク為相守可申候、為後念調達銀仕法帳面書仍而如件

文政八年酉四月

深江村岡　茂左衞門
横屋村松田与左衞門
住吉村吉田吉右衞門
打出村細谷佐太郎
中野村高橋弥右衞門

吉田喜平治殿
柴屋長右衞門殿

前書之通相違無之候以上

奈良　丈太夫

右赤木御屋舗御仕法帳面之通堅相守可申候以上

文政八酉年四月

柴屋　長右衞門
吉田　喜平次

約定證文之事

一、今般別紙仕法帳面之通年賦調達銀組立候ニ付、其許方へ銀預ケ之義御頼談申入候處御承知之上利足ハ集會翌月ゟ月五朱壱歩ニ相極閏月ハ相除毎年十二月迄之利足ハ元銀ニ差入都合翌年ゟ元銀ニ相成御熟談申候處実正也、然ル上ハ右銀子仕法帳之通皆済之上残る人数へ割方ハ不及申會毎渡方并夫々入用等有之事故於屋敷表万一臨時入用ハ勿論村同躰之公務入用筋差発候共多少共決而借用致間敷候、其外ニ細々敷義ハ別紙定書之通聊無違背急度

相守可申候、尤此役札右調達銀年限中御用ひ可相成候将又我等共之内世話方相退ヵ候ハ、後役之者へ引請無滞相済候迄無違失為相守可申候
為後念調達銀約定証文依而如件

勘定元
世話方

文政八酉年四月

深江村　岡茂左衛門
横屋村　松田与左衛門
住吉村　吉田吉左衛門
打出村　細谷佐太郎
中野村　高橋弥左衛門

銀預リ
吉田喜平治殿
柴屋長右衛門殿

前書之通相違無之候以上

奈良丈太夫

定書

一、掛銀相預ケ候ニ付其許方ゟ通ひ帳申請取渡共右通ひ帳へ御記シ可被成候事
一、勘定一件之儀ハ屋舗表勘定元幷世話方ニ而取斗惣〆高銀御掛ケ致候都合ヲ以相預ケ可申候事
一、金銭出違之儀可有之儀ニ付当日両替方売買之直段ヲ以御取斗可相成候事
一、年賦銀渡方之義ハ当日勘定元ゟ証札相渡置會日集銀相預ケ候上ニ而翌日其許ゟ銀子請取当人へ相渡可申事
一、會日加人方へ相渡候封金銀之義ハ其人数之〆高を以請取包方万端此方ゟ取斗可申候事
一、會月諸入用銀是又凡何百匁宛与仮極在之候得共會数相済候得ハ次第ニ入用高も相減可申万端請拂帳面幷書付願被成被見候上右之入用銀高請取可申候事

一、右年限相満候節残御人数三拾人江之渡方之儀ハ
満會月ゟ三ケ月後ニ御渡可成候併右三ケ月之利足
ハ不申請候事
一、入札之節ハ最初ゟ当日迄銀高ニ而入札ニ付、夫
ゟ落札銀高ニ間銀在之分ハ加入方へ割渡候事
但加入方数人数ニ付右間銀ハ勘定元世話人
へ受取夫々江割渡シ可申事
右之條々堅相守可申處実正也。将又拙者共之内世話
方相退キ候ハ、後役之者江引請聊無違変相心得為申
右年限中此証札御用被成候
為後念定書仍而如件
文政八酉四月　勘定元
世話方
深江村　岡　茂左衛門
横屋村　松田与左衛門
住吉村　吉田吉左衛門
打出村　細谷　佐太郎
中野村　高橋弥三左衛門
銀預リ
吉田喜平治殿

柴屋長右衛門殿
前書之通相違無之候以上
奈良　丈　太　夫

約定証文之事
今般前紙仕法帳之通赤木様御屋舗年ニ付御調達銀
御組立ニ付銀預リ之義、此方共江御請被下委細承
知仕候然ル上ハ利足之儀集會翌月ゟ五朱壱歩ニ相
極閏月ハ除候ハ、毎年十二月迄之利銀元銀へ差加
へ翌年ゟ元銀ニ相加約定申處実正也
一、右預リ置候集銀帳之通皆済之上残ル人数江渡方
ハ不及申會毎渡方并夫々入用渡も可在之候事故万
一於御屋舗臨時御入用ハ勿論如何様之御公務御入
用筋共多少ニ不限右預リ銀預リ中ハ決而御渡不申

堅約定申處相違無御座候。

一、別紙定書之通聊無違背急度相守可申事

一、右御調達銀年限中万一私共連印之内故障等在之ハ残リ者共ゟ急度相守可申候、年限相済差引残銀之分、無相違御渡可申候、其為連印一札依而如件、

一、年賦銀渡方之儀ハ当御勘定元ゟ当日証札請取置會ニ集リ銀預リ候上ニ而銀子相渡可申事

一、會日加人之方江相渡候菓子料封銀之義其人数〻高を以銀子相渡可申事

一、會日諸入用銀之義ハ其度毎被遣候書付通銀子相渡可申候、尤其時々私共ゟ差出有之候請取渡シ通ひ帳御添被下度候、右帳面へ相記シ差出可申事

一、年限相満候節残ル人数三拾人江渡方之儀ハ満會月ゟ三ヶ月後御渡可被下候事

但右三ヶ月利足ハ不相渡約定之事

一、入札之節ハ最初ゟ当日迄之掛銀高ニ而入札為致候事ニ付落札銀高ニ間銀在之分ハ加入方へ割渡シ事

但加入数数ニ付勘定元世話人へ相渡夫々江割渡シ在之候事

右之條々堅相守可申處実正也、尤万一私共之内故障之義御座候ハヽ相残連印之者引請聊無違変相心得可申候為勘定書一札差出シ申候　以上

文政八酉年四月

柴屋長右衛門

吉田喜平治

質物差入証文

差入申質物証文之事

一、㊞屋舗　壱ヶ所　畝歩　分米御帳面通リ

四至　東ハ川限リ南川限リ

西ハ車道限り北ハ与右衛門田地限リ

右地面之建物

座敷分

一、㊞建家　壱ヶ所　梁行弐間　桁行五間　但瓦葺

但シ南表側七尺庇シ雨掾付キ西ニ五尺庇シ

付右側戸障子敷鴨居釣天井付根座板并

ニ床壱式其外諸色共当時有姿之儘

臺所㊞庭通リ

一、同離　壱ヶ所　梁行弐間　桁行六間　但シ右同断

但シ東ニ壱間之庇付尤入口戸障子敷鴨居

其外釘付之品有姿之儘

部家㊞分

一、同断　壱ヶ所　梁行壱間半　桁行弐間　但シ右同断

但シ諸色共右同断

并ニ右三ヶ所共家下ニ有之候根石捨石其外、

屋舗中ニ有之候竹木ハ不及申廻野石共不残其

儘

〆

右之屋舗建家共、我等所持御座候処、此度無拠義

ニ付、其許殿へ質物ニ差入、銀弐貫目㊞慥ニ請取借

用申処実正也、然ル上ハ月「（空白）」之利足を以其元

殿之御入用之節ハ何時ニ而茂元利銀無滞急㊞度返済

可仕候。万一返済之節少シニ而も相滞リ候ハハ前

書之質物其元殿へ御引取御心任ニ可被成候、其時

一言之子細申間敷候、為後日質物証文仍而如件

文政九戌年　　質主　横屋村　　与左衛門㊞

七月　　同村　　三右衛門㊞

前書の通相違無御座候間奥印仕候也

年寄　　平左衛門㊞

茂左衛門殿

右之通相違無御座候ニ付、

奥印仕候

年寄

喜平次㊞

質物差入銀子借用証文

質物差入銀子借用証文之事

一、屋舗㊞　弐拾歩　分米壱斗

一、上畑㊞　壱畝弐歩　分米

一、居宅㊞　壱ケ所　梁行四間　桁行五間

但シ藁婦キ四方内庇瓦婦キ

一、土藏㊞　壱ケ所　梁行弐間　桁行弐間

但シ瓦婦キ有姿儘

右之古藏居宅屋舗我等所持ニ御座候処、此度無拠要用之儀ニ付、質物差入銀弐貫目㊞慥請取預リ申所実正也。然上ハ月壱分之利足加へ来亥十二月廿日限ニ元利とも無滞急度返済可仕候、万一相滞候ハハ、右質物貴殿御引取御支配ニ成被下候其時一言之子細申間敷候。為後日質物差入銀子預リ証文仍而如件。

文政九戌年十二月　質入主　喜左衛門㊞

受入　彦四郎㊞

銀子預リ証文

預リ申銀子之事

一、銀㊞弐貫目

右之銀子此度氏神普請入用ニ付、我等中江慥㊞ニ請取預申所実正也、然ル上ハ、壱ヶ年ニ壱分之利足ヲ加へ、来ル子七月限リ元利とも無遅滞、急度返済可致候、為後日銀子預リ連印証文仍而如件

文政十亥年　　銀預リ主森村庄ヤ

七月　　治左衛門㊞

右同断三条村　　藤助㊞

庄屋

六兵衛　㊞

右同断小路村

庄屋

幸助㊞

右同断津知村

庄屋与兵衛㊞

右同断北畑村

庄屋

若太夫㊞

右同断中野村

庄屋

安左衛門㊞

右同断田辺村

庄屋九右衛門㊞

同断彦五郎㊞

右同断同村

年寄

右同断青木村

年寄利助㊞

右同断深江村

打出村

作兵衛殿

預り銀証文

預り申銀子証文之事

一、銀弐貫㊞七拾九匁九分弐厘也

右ハ志木様調達銀ニ而、書面之通慥㊞請取預り申処実正也、然ル上ハ、月七朱宛之利足相加へ、来ル十二月限元利共無滞急度返済可申候、為後日銀子預り証文依而如件

文政十一子年　住吉村

六月　吉右衛門㊞

中野村

弥三左衛門殿

預り銀証文

預り申銀子之事

一、合銀壱貫㊞六百目也

右之銀「（虫喰）」㊞受取預り申候処実正明白也。然ル上ハ壱ケ月ニ拾六匁宛相加江、来午年十二月廿日限リニ元利共急度返済可仕候、若連印之人差支之もの御座候ハヽ残リ壱人ニ「（虫喰）」返済可仕候、為後日連印証文依而如件

文政十一子年　銀子預リ主森村

十二月　治左衛門㊞

右同断中野村

安左衛門㊞

深江村

阿三や茂左衛門殿

連印預り銀証文

連印預り銀証文之事

合銀弐貫目也

右之銀子無拠就要用我々中へ慥ニ請取預り申処実正也。然ル上ハ、壱ヶ月ニ壱分利足ヲ差加へ其元殿御入用之節、何時成共、元利とも無滞急度返済可申候、万一連印之内壱人ニ而茂差支之者出来候ハヽ相残ル印形之者より、聊無遅滞急度返斉可申候。為後日連印預り銀証文仍而如件

文政十弐丑年　銀子預り主

七月　中野村

茂兵衛㊞

同断

同村

安左衛門㊞

深江村

茂左衛門殿

銀子預り証文

連印証文之事

一、銀壱㊞㊞貫六百目也

右銀子此度要用之義ニ付、我等中江慥㊞ニ借用預り申処実正也。然ル上ハ右銀子返済之義ハ、来ル未年迄七ヶ年之間、年々毎度ニ利銀として銀子百弐拾匁九分宛急度返済可致候、万一連印之内差支之者有之候ハハ、相残ル壱人ニ而毛急度返済可仕候為後日銀子預り連印証文依而如件

文政十二年　中野村銀子預り主

丑七月　勘兵衛㊞

同村同断

吉兵衛㊞

深江村

茂左衛門殿

質物差入一札

質物差入一札之事

一、建家　一ヶ所

但シ藁葺キ
桁行三間半
梁行三間　有姿通リ

右ハ当午年御年貢ニ差詰質物差入銀百目㊞㊞我等ニ慥ニ請取預リ申処実正明白也。然ル上ハ月壱歩之利足ヲ加へ、来ル未之七月晦日限リ元利共ニ無滞、急度返済可仕候。万一間違候ヘハ請人方より急度払らい可申候、為後日質物一札仍而如件

天保五年
午十二月　質主　伊平治㊞
請人　利助

文助殿

預ケ銀滞につき下済取斗願

覚

一、連印預リ銀　預人　町内　嶋屋儀左衛門

滞出入　相手　其村　柏村文左衛門

相手　同村　坂口玄泉

右ノ通相手取来候御用日ニ御出訴仕度段申出候ニ付御引合申上候、何卒御調之上下済　御取斗頼上候乍然行届不見候ハヽ否奥書御調被申可被下候

以上

天保七酉八月

濱方　鞍掛町㊞

深江村
御役人中

懇意貸取戻願訴状

乍恐御訴訟

西宮

小浜屋さと

代判　與次兵衛

懇意貸

取戻シ出入　同所市庭町

筏屋

作兵衛

御奉行所様

一、私儀古手屋渡世仕候處右相手佐兵衛と懇意之間柄ニ御座候處、去ル嘉永弐酉年九月廿二日木綿四布五布蒲團弐帖、木綿三布四布蒲團七帖都合九帖右品佐兵衛宅ニ客来御座候間入用ニ付與次兵衛口次を以貸具候様相頼候ニ付、同月晦日迄之日切リ以貸遣シ候處其後入用ニ付度々差戻シ呉候様催促仕候得共、一向取合呉不申最早下ニ而可仕候様無御座候ニ付乍恐奉願候、何卒右相手之者御召出之上早々相戻シ呉候様被為仰附下被候ハヽ高大之御慈悲難有仕合ニ奉存候　已上

嘉永四戌年

小濱屋さと

代判

與次兵衛

連判銀書上

連判銀之内

戌預り高

一、弐貫六百五拾匁

「（虫喰）」拾三匁四分

元利〆三貫六拾三匁四分

内

壱貫拾三匁　亥年廿八日請取

亥預り高

〆テ弐貫五拾匁四分

「（虫喰）」百四拾六匁五分弐厘

「（虫喰）」弐貫三百九拾七匁九分弐厘

丑利三百七拾三匁七分弐厘

元利〆弐貫七百七拾匁八分四厘

内

（虫喰）「　」四百目　丑十一月請取

（虫喰）「　」貫三百七拾匁八分四厘

寅利弐百弐拾三匁弐分五厘

元利〆壱〆五百八拾四匁（虫喰）「　」分九厘

卯利三百九匁壱厘

（虫喰）「　」八百九拾三匁七分

右之通慥ニ請取皆済如件

打出

若右衛門

卯極月廿八日

拾助殿

金子借用につき書状

向暑之砌ニ御座候得共益々御安康被成御座珍重ニ奉存候、甚以申兼候得共大坂銀子ニ四月神事神楽料ニ遣申度奉存候間金壱両丈其御村方ニ而御取替被下度奉願上候跡之義ハ両人之内ニ而手続仕候間何卒宜敷奉願上候尤両人の内参上仕御願可申上候筈ニ御座候へ共無據用向御座候故乍失礼以懇書御願申上候先ハ右之段呉々も奉願上候

頓首

五月十日

神田筑後守

庄屋次左衛門

永井喜平治様

尚々申上候今日御手続出来がたく候へハ両三日之内ニよろしく候間奉願上候返済之義ハ極月被割銀ニ而御差引可被下候

借銀の件につき書状

大暑之砌ニ御座候得共益々御安康ニ被遊御座候珍重之御義奉存候然ハ昨日ハ遠方之所御入来被下忝千万奉存候其節御見合申上候彦左衛門一件下拙方も返々勘弁仕候得共余リ先方ニ気間々ニ被致候様ニ存候間一向何共勘弁仕がた具御気之毒様ニ奉存候得共御挨拶之御取計御断奉申上候私方モ昨日御咄申上候通之義ニ御座候間宜敷御遼察被遊可被下候何連右之通之御咄ニ而ハとても対談出来不申候故呉々も御断申上候先方之心服ハ相延置身代銀請度候得バ先方よりも下地之銀子ニ而対談モ出来若又夫ニ而対談出来不申候得バ延シ置足手はこばシ壱〆目ニ而対談致遣候人様之思召ニ而奉存候夫ハあまり不実致方之様奉存候初より相成候義ヲ彼是御申被成ハ御人柄ニ仁合不申候間何連対談出来不申候間此段御断旁々如此御座候

五月廿八日

吉次郎

深江村御庄屋様

（包紙）

五月廿八日　　辻　吉次郎

なだ深江村

米屋　喜平治様　　西宮

急用書　　松平家印

借用銀につき永井喜平次宛書状

秋冷ニ御座候処益々御安康可被成御座珍重之御儀ニ奉存候然ハ先達而御願申上候銀子之義何卒〳〵申兼候得共御かし被下候様偏ニ奉願上候甚以ケ様ニ申上候義ハ何とか御気之毒ニ御座候得共私方にも無據入用ニ奉存候間此段御高免可被下候先ハ右申上候通宜敷〳〵奉希候　謹言

九月十五日　　森　秋子より

深江村御庄屋

永井喜兵次様

御もとへ

借用につき書状

一筆啓上仕候寒冷之砌ニ御座候処益々御安康可被成御座珍重之御儀ニ奉存候然ハ先達而御来駕之砌御苦労ニ御出席被下辱奉存候且又一昨日は例年之通御初穂御遣シ被下辱奉壽候乍併甚以申兼候へ共尊家様ニ金弐歩計御手廻リ合御座候へハ御借用申度奉存候尤返済之義ハ私方へ当極月ニ借用申請候銀子ニ而御差引可被下候若又今日御手廻リ合無御座候ハヽ明日にても不苦候間何卒〳〵毎々申上候義ハ御気之毒ニ御座候得共此段偏ニ奉願上候先ハ貴免復々御礼御物語可申上候　以上

十一月十五日　　神田筑後守

深江大庄屋
永井喜兵次様
尊下

金公事につき書状

向寒之砌ニ御座候処益々御安康可被成御座奉賀候　然ハ当村七兵衛より其御村忠兵衛庄兵衛両人相手取銀段ニ付出訴仕度候様申来候奥印致呉候様相願申候ニ付段々下済可致利解申聞候へ共何分其御村忠兵衛庄兵衛頓着不仕旨申居候間何卒今一応右両人御呼被下候而下済相成候様御取被成下候　最早時節柄と申雑費等御互ニ難義ニ御座候得バ右御賢察被下何卒下済相成候様致度依テ右之段御願之義申上候自然下済行届き不申上候へハ来ル御用日を出訴為致可申候此段為念申上度如此御座候以上

十一月廿四日　　与兵衛

（包紙）

十一月廿四日

深江村　　青木村　仁左ヱ門
御庄屋　喜平治様
貴下用所

漁船新造買請願書

乍恐以書付奉願候

一、拾五石舟　弐艘　漁船　深江浦

安　兵　衛

右之古舟同村嘉兵衛方へ拂申度奉願候

一、貳拾石舟　弐艘　漁船　同　人

右之舟此度新造ニ仕度奉願候

右之通拂舟并新造奉願候通被為仰附被下候ハヽ、難有可奉存候　已上

享保八卯年七月　深江浦願主　安　兵　衛

右之通相違無御座候ニ付加判仕差上ヶ申候以上

深江浦年寄　新　兵　衛

同所　弥三右衛門

同所　仁左衛門

当浦庄屋　吉　兵　衛

浦庄屋西宮　茂左衛門

浦御廻方様

乍恐以書付奉願候

一、拾五石船　弐艘　漁船　新船持深江浦

嘉　兵　衛

右之船同村安兵衛方ゟ拂申度由被申候ニ付買請私網船ニ用申度

一、ちよ起舟　三艘　同　人

右之ちよ起舟東青木村作領新兵衛と申もの拂申度由申シ候ニ付買請用申度奉願候。

〆五艘

右之通買請申シ度奉願候、浦御高札之趣船御改御前書之通委細承知仕奉畏急度相守可申候、願之通被為仰付被下候ハヽ、難有可奉存候以上

享保八卯年七月　深江浦願主　嘉　兵　衛

右之通相違無御座候、則浦御高札船御改御前書之通相申聞急度相守せ可申候願之通被為仰付被下候ハヽ難有可奉存候以上

深江浦年寄新　兵　衛
同断　　弥三右衛門
同断　　仁左衛門
同浦庄屋　吉　兵　衛
浦庄屋西宮茂左衛門

浦御廻方様

（表紙）

寛政十一年
未三月
船御改之帳

摂州兎原郡
深江村

船改帳覚書

一、浦邊御高札之趣急度可相守。勿論近年段々被仰出候異国船之抜荷を買取候義ハ不及言、右之事ニ少茂携申間敷候。抜荷抔取扱候者見詰候ハヽ早速可訴之。尤他国ニおゐて、其所之役人江其趣」（虫喰）」領往来候借船之船預水主其所」（虫喰）」法式堅相守可申候。尤陸船共是役人幷於諸番所ニ、改候節不礼働不仕有躰相断、差図次第ニ通船可致事。

一、怪敷船繋居候就又ハ日本人ニ無之躰之者乗居候

を及見候ハヽ、押置早々可仰遣。自然右船差押候義不承届及出船候ハヽ、跡を志たひ落先見届ケ、其所之役人江可訴之事。

一、浦々ニおゐて、公儀之御船ハ不及申、縦商船たりとも難風ニ逢候時ハ、不限昼夜助船(をカ)□出し、破船不致候(様カ)□情相働き(虫喰)□間敷事。

一、破船有之節ハ浦邊之もの共、早速出人出船□江相連出情荷物取揚番人を付、拠無之様仕置、早々訴之差図し候上、御定法之通荷物分一可取之。其外船預リ分より軽き礼物たりとも、一切受納す遍から須事。

附ケ荷物船具之類流寄候ハヽ、取揚置可相届事。

一、諸荷物少分之義たりとも、仲間ニ而廻船(虫喰)□リ直ニ買取間敷事。

一、船水主共他国江来リ候砌、先庄屋年寄相連浦手形取之可□来候、其先き〳〵爾おいて被雇候事不義□共無拠子細有之先々□令通船歟又其日数積リ之外□延引候ハヽ、先き〳〵に而証拠之書付取之、帰船之割庄屋方へ可差出候。尤至分之船ちん不可取事。

附ケ他国におゐて、其所之法式堅相守遍く事。

一、渡海木船石船ちよき船ニ旅人乗遍から須事。漁船網船魚手操ちよき船ニ荷物積入乗候義堅不可致事。

一、廻船渡海船木船ちよき船ニ積候荷物不依□ニ紛□疑敷荷物積申間敷事。

右之條々五人組仲間申合堅相守偏く候。勿論其所之庄屋年寄船主よ里仲船預水主共、法式不相背様常々申付、若違背之族於有之ハ可訴出之、隠置令露顕ハ当人ハ不及言、五人組之もの迄急度可為曲事候。尤浦役人令油断不埒之義於有之ハ、是又可為越度者也。

寛政十一年　　午三月

右被□仰渡候□

如何様之曲事ニ茂可□

御請仕差上申候□

寛政十一年　　□

未三月　　新兵衛㊞

一、三拾石積　渡海船壱艘　［　］右衛門
一、三拾石積　渡海船壱艘　［　］
一、三拾［　］

一、三拾石積　漁船弐艘　［　］
一、十五石積　漁船弐艘　同人
一、ちよき　漁船五艘　同人

［　］合三拾艘

木村周藏様
御役所

漁師障笠の件につき口上

（前缺）
兵庫湊出船仕候処、深江浦沖合にて被呼留西ノ宮与三兵衛新網仕候趣以相頼候ニ付、私共御用網抔ハ一切不存候間約速仕尤一日分百五拾文日雇賃ニ相定候而網拵ニ相懸リ当月八日ニ網おろシ仕候處銘々共江障笠壱ツ与三兵衛ゟ相渡候ニ付私共此障笠一ツ稼候妨ケニ相成候ニ付、相断申候處右与三兵衛申儀ハ御免網之儀ニ有之候故右障笠相用候様申候故、御上様御聞済茂有之候様ニ存無何心一日丈ケ相用候得共、一向勝手悪敷候故、右障笠取置私共所持之笠相用其日ゟ一切障笠を相用候義無之勿論外之漁船之妨ケ仕候儀ハ一切無御座候、尤日雇賃之儀ハ先借リも有之候得共別紙帳面ヲ以夫々奉申上候、何分漁師稼之者共にて談合之儀ハ一切存不申御尋ニ付乍恐書附ヲ以有躰奉申上候已上

辻嶋次之助殿御代官所

天保三辰年　摂州兎原郡
九月晦日　深　江　村

漁師共
三十人
惣代頭百性
甚右衛門

御奉行様

船手形御用木につき書状

御手紙披見申候。弥御無事珍重存候。爰元替儀無之候。然ハ西宮ゟ出シ候勘定ニ明廿二日有之由、舟手形之儀御用木上リ帳内御引合せ成手形御吟味可有之候。不残帳箱ニ手形有之候間とくと御吟味可被成候。西宮へハ年寄衆可被遣候。以上。

十月廿一日

追而申入候。御用木舟つゝ帳此方ニ入用有之候間、明日ニても此元へ可被遣候。以上。

同　　吉兵衛

〔　　〕殿

渡海船買取につき覚

覚

一、拾五石舟　壱艘

右之渡海其元川崎町太兵衛所持之船此度當村五郎衛門方へ買請申所相違無御座候□□□□□と有之候得共五郎衛門ニ而有之候間左様御心以願書御届尤ニ候已上

〃〃〃上可被成

六月廿四日　深江村買主　五郎衛門

同村庄屋　吉兵衛

兵庫川崎町組頭　久衛門　殿

同所　太兵衛　殿

廻船出帆差止願

覚

廻船加入銀出入　百

元銀三貫百匁也　毛馬屋

願人　彦又三郎　印

右ハ其御北濱屋庄三郎所持之廻船被加入いたし罷在候處此度勘定不仕候付、度々引合候可も埒明不申候間無據御出訴仕度趣申出候ニ付御引合申上候、本人御糺之上右廻船出帆差止被下不済御取斗可被下候、若埒明不申候ハヽ右儀奥書御調印可被下候

以上

午五月　下博労町　印

深江村

御役人中

（表紙）

丁寛政八年

太福帳　改

巳正月吉日

安永七

一、百拾四匁　戌年
一、四百廿三匁　亥年
一、五百三拾匁　子年
一、八百七十三匁　丑年
一、壱〆弐百四十弐匁　寅年
一、壱〆弐百四十五匁　卯年
一、壱〆四百目　辰年
一、百九十五匁　巳年
一、壱〆弐百五十九匁　（午年カ）「　」
一、壱〆七百六十匁　未年
一、七百廿六匁　申年
一、四百廿目　酉年
一、壱〆五百四十目　戌年
一、弐〆百目　亥年
一、五百五十目　子年
一、壱〆八百三十目　丑年
一、壱〆三百三十目　寅年
一、弐〆七百八十目　卯年
一、□（壱カ）〆五百目　辰年

〆十九年間

〆弐拾三〆八百廿弐匁
一、弐〆四百七十目　巳年
内九〆弐百七十目

掛方引

〆　拾弐〆五百五十弐匁
此内　弐〆五百目　藏入用
一〆　壱〆七百目　田地買
一〆　壱〆九百四十目　証文銀かシ

三〆目　　賴母子之かけ

〆九〆百四拾目　引

〆三〆四百拾匁

元あり

一、弐〆四百七十目　午年

一、弐〆目　利

一、弐〆壱百三十め　未年

一、弐〆五百七十目　申年

酉年分

改候

一、四〆弐百目　戌正月改

一、三〆五百目　亥正月改

一、三百五拾目　清七宿代

一、三百五拾目　彦衛門同断

一、三百五拾目　与左衛門同断

一、弐百五十目　源兵衛同断

一、三百目　左兵衛漁納

一、百六拾目　□□屋

新兵衛宿代

〆壱〆七百六十目　買取申候

未拾壱月分

一、三〆目　和より田買

一、弐〆七百目　南藏入用

いたくとも

一、弐〆目　東藏入用

いたくとも

亥正月

一、四百目　与左衛門より

東口田壱枚

一、壱貫〆

弐百五十匁　焼酎屋

入用

合拾壱貫百拾匁

外ニいたく入不申候

掛方残リ覚

一、三百拾四匁　戌年

一、九拾三匁　亥年

一、百五匁　子年

一、弐百拾四匁　丑年

これより米や初

一、五百四十目　寅年
一、六百六拾目　卯年
一、四百九十目　辰年
一、入百拾匁　巳年
一、壱〆三百四十目　午年
一、壱〆弐百四十目　未年
一、三拾目　申年
一、入九百目　酉年
一、三百目　戌年
戌年　これよりほかに買物
一、弐百三拾目　亥年
一、弐〆百四十目　子年
一、四百五十目　丑年
一、七百九十目　寅年
一、入九百目　卯年
一、弐〆弐百廿目　辰年
〆十九年
此〆拾壱〆百八十弐匁
入〆壱〆九百十匁
〆　九〆弐百七拾弐匁

一、八百七十目　巳年
一、八百七十目　午年
一、弐〆四十目　未年
一、入五百四十目　申年
一、壱〆七百七十目　酉年
一、三〆弐百目　戌年改
一、三〆五百目　寅正月改
入三百目　子正月改
入壱〆四百目　丑正月改
一、弐〆三百目　寅正月改
一、壱〆百七十三匁　卯正月
御改
一、百六拾五匁　辰正月
御改
一、五〆八百七十目　巳年
一、　午之年
一、弐〆目　未正月
御改
此年より焼酎扱仕候
一、　申年

安政四年　巳四月吉日
忌中　見舞之覚

巳四月十二日夜
一夜せく　五升重　惣五郎
一同　五升重　江戸屋惣左衛門
一同　五升重　石田ヤ　作次郎
一酒　弐升　庄左衛門

初リ
巳四月十二日夜
一、飯五升重　惣五郎
一、同五升重　江戸惣
一、同五升重　作治郎
一、酒弐升　庄左衛門
一、長ゆば　上三本　喜治郎妹お菊
一、わらべ中たば六わ　徳右衛門
一、わらべ　大　治兵衛
一、竹のこ五百目　嘉七

一、長ゆば　五本　坂口
一、まめ　一升　野間
一、長ゆば　五本　北、喜右衛門
一、とらや　十　長右衛門
一、わらべ　十　平九郎おたき
一、八百目　たけの子　岩友、おきぬ
一、大はぎ　三升重　善右衛門
一、同　三升重　五郎兵衛
一、同　弐升重　栄三郎
一、同　弐升重　栄三郎忰岸杢
一、同　五升重　ひの口や源右衛門
一、糀米　三升　藤三郎
一、焼とうふ　十五　藤兵衛
一、同　十　久左衛門
一、同　十　彦右衛門
一、同　十　九郎兵衛
一、ふんど　源左衛門
一、せんべい　六十五　丹波屋新右衛門
一、白米　三升　東谷和三郎
一、酒　壱升　市兵衛

一、酒　弐升　弥三左衛門
一、とうふ　弐丁　与左衛門
一、わらび　十　久太夫
一、わらび　八　半三郎
一、こいも　三升　源次郎
一、糀米　三升　仁左衛門
一、まん十　百　米惣
一、三升重　彦左衛門
一、やき　十　彦左衛門
一、あげ　八十　伊助　あし浜八右衛門留藏
一、三升重　九郎左衛門
一、あげ　十　吉右衛門
一、まんず　百入　五兵衛
一、まんず　五十　平次郎　久治良
一、四升十　茂左衛門
一、あげ　十八　庄九良
一、いば　二本　善吉良
一、せんこ　拾ば　ヱ田　忠兵衛母
一、壱匁　庄七
一、とうふ　三十　田中治兵衛

一、ちさな　池田や伊兵衛
一、七合まめ　弥右衛門
一、わらび　あめや忠太夫
一、やきとうふ　十五　七右衛門
一、ゆば　三本　又左衛門
一、わらび　たるや嘉介
一、め大かふくろ　大坂　嘉平治
一、きさみこふ　大坂　嘉平治
一、やき　十　作左衛門
一、同　おみな
一、同　はり七
一、同　三右衛門
一、同　千左衛門
一、あげ　庄兵衛
一、ゆば　はまう平次
一、壱匁　嘉平次
一、壱匁　たい勘兵衛
一、壱匁　清五郎
一、三升十　新兵衛
一、三升十　弥三右衛門

一、四升十　藤左衛門
一、三升十　柳　みせ
一、さけ　壱升　千兵衛
一、同　壱升　庄　七
一、ゆば　四本　藤井屋
一、ゆば　三本　かしわや
一、同　七本　永田や
一、やきとうふ　伊　藏
一、同　喜三郎　浜
一、同　やませ
一、あげ　十　佐兵衛
一、やま　十　三郎兵衛
一、とうふ　三十　助　松
一、ふき　忠　助
一、やき　十　五郎左衛門
一、同　市郎兵衛
一、四升重　太る清
一、三升　平四郎
一、弐升　中右衛門
一、ゆば　三本　新五兵衛

永井喜平次宛　諸勘定書上

覚

一、壱〆四百四十六匁四分　かり
　此分四十三匁八分
銀三百五十匁五分　三月十八日分
　金五両

二月十九日
〃百五十匁　年形
四月預り
〃三十匁五分　金弐両
〃
〃札弐拾匁
四月十九日
〃三百三匁七分五厘　金五両
　六十匁四分　かへ
六月十七日
〃三百弐匁　金五両
六〇六　つゝ

六月廿六日
〃三百三匁　金五両
九月二日
〃百九匁八分　銭弐貫文
三月
〃弐百十匁　干粕六駄
八月十三日
〃拾四匁　豆壱斗
〃廿三日
〃七匁弐分　同五升
入〆三〆七百五十三匁
　壱合五厘
一、弐十四匁　未年
　壱分七厘　いりや勘定書上
未年
一、七十三匁　吉三郎
　八分　久銀代
申年
一、七十八匁　同人
〆壱〆六百六十六匁

壱分七厘
差引〆八十七匁　かし
九月八日
又百八十壱匁五分　八郎兵衛
金三両　かへ
〆弐百六十八匁五分
かし
申十二月廿八日
永井　ざこ忠
喜平次殿

酉とし　義仁
米之通
深江
喜平治様
覚
五月十六日
㊞壱〆九百文　吉久古米
壱斗九升
五月廿六日
㊞壱〆弐百七拾文　同古米
壱斗三升
〆九四可へ
五月晦日
入壱〆六百文　金壱匁
六、四可へ
同日
入百文　但シ先差引
残勘定
銭かへ高

〆　三貫百七拾文　　出
　　壱貫七百文　　入
差引残
引合　壱貫四百七拾文　入
　　是迄相済出入無

一、壱〆弐百七拾文
　　吉久古米壱斗

六月五日
一、九百七拾六文　渡し
　　吉久古米壱斗
　　九、四　かへ
同日
一、壱貫五拾文　　相渡シ
　　一ッはし上白壱斗
　　百五可へ

六月八日
一、四百六十七文　　相渡シ

但臺古内四斗八合
　　九、四　可へ

十五日
入弐〆文　　請　取

一、九百卅六文
　　但代　壱斗
　　九がへ

十二日分
一、九百卅六文
　　但代　壱斗
　　九がへ

同
一、八百卅弐文
　　但代下米壱斗

同日
入弐〆文　　請　取

七月晦日
一、壱〆三百五十四文

但代壱斗四升八合
八八がへ
同日
入壱〆五百文　請　取

四日
一、五百六十文
庄内六升
九がへ
一、七百四十八文
八升
七月五日
一、壱〆四百六文　壱斗五升

七月八日
入銭弐貫文

〆九貫弐百八十壱文
内へ七貫五百文入
差引残
5合　壱貫七百八十壱文

七月まへ

七月十九日
一、壱〆文　米壱斗
同
入弐貫文　受　取

廿四日
一、卅七匁六分
但　臺壱俵
廻シ四斗
九四がへ
一、壱〆四百六十六文
内米壱斗五升

十一日
入弐〆文　受　取

十三日
一、壱〆文
八月十五日
一、壱〆文
内米　壱斗

同日
入弐貫文　受取
十六日
一、壱〆文
内米　壱斗
〆八貫五百四十五文
内へ六〆文入
差引残
弐〆五百四十五文
右之通慥ニ受取相済申候
八月廿二改
一、壱〆五百文
越後米壱斗五升
〆
廿九日
一、壱貫文
白米　壱斗
入弐貫五百文　九月まへ相済

人数受取覚
覚
一、拾五人
外ニ世話人壱人
〆拾六人
右通　慥ニ受取申候　以上
丙四月十四日分
駅　所
西駅所宮

銀札受納覚
口上
一、銀札七匁
右ハ当亥年ゟ丑年迄三ケ年
済切受納仕候
白川殿御内
書役
南源之亟 花印
深江村
御役人様

米受取覚

覚

一、御米百五拾弐俵也

右之通慥ニ請取申候　以上

横屋村

村役人㊞

子十月廿六日

深江村

御役人中

払金覚

（端裏書）

「横屋村

御庄屋與左衛門様　　八木

御願用　　喜助」

覚

六月廿九日之分

一、三両　　深江村

御三人様

中ト渡

九両六分　　御肴　早々

三両四分　　御酒

〆拾四両

当七月前之分

右御拂之分何卒御序之砌宜敷御願申上候

以上

十一月十六日

酉年割銀覚

酉年造リ者割

一、拾六匁九分七厘

右之通立會無高分致割賦候處相違無御座候

已上

十一月　　庄内中

深江村

金銀銀札受取覚

一、札　廿匁

一、金　三歩

一、銭　壱〆七百文　（此内□貫匁かふ代）

〆八拾四匁

右之通慥請取申候

喜平次殿　　清　兵　衛㊞

十二月廿四日　　清「　　」㊞

米数書上覚

覚

一、納四拾俵

外　壱斗

升〆十六石壱斗

一〃廿弐俵

升　八石八斗

〆廿四石九斗

五斗入

此俵四拾九俵

升　廿四石五斗

〆　四斗程　はシ太余リ

六石八斗七升　四百五十八俵

余　米

〆七石弐斗七升

此俵十四俵

又弐斗七升

一、四斗程　　同藏ゟ

仕立餘リ入

一、六石九斗四升五合

〆七石三斗四升五合

内十三俵　五斗俵仕立也

此升六石五斗

〆八斗四升五合

内三斗弐升　あまり
余米預分
又五斗程　有
〆
廿石五升四合　十八石三斗五升弐合
□□壱石九斗□

米数書上覚

覚
一、三百九十五俵
一、六俵　米　キ
一、十八俵　彦衛門
一、十八俵　庄左衛門
一、廿弐俵　阿まり
〆四百五十九俵
又七十弐石八斗壱升　出作
此俵百四十五俵

又三斗壱升
又六石八斗八升五合　余米
此俵十三俵
又三斗八升五合

金高書状

小弐朱　弐両三分弐朱
弐朱金　三両弐分弐朱
弐朱　三歩弐朱
〆　七両壱分弐朱
壱朱金　三両弐分
札拾七匁五分
銭壱〆九百六十文

銀子書上覚

覚
一、元銀四〆五百匁
此リ壱〆五百三十匁

又　七百六十五匁

〆六〆七百九十五匁成

右之通御座候

御割宿賄他

覚

一、三百目　郷割庄割之内

一、弐百目　宿々賄之内

一、拾九匁八分　申札代

一、廿三匁六分三厘　竹札代

一、四斗　免割入用

代四拾壱匁弐分

〆五百八十四匁六分三厘

村松一郎兵衛書状（永井吉兵衛宛）

尚々御手透之節ハ御参宮等相約シ助左衛門殿十助殿可然様奉頼候。各様御同道ニ而当年中御参詣奉待候。万喜可得御意候。折節取込麁筆早々申上候。以上

預貴札忝致拝見候。如仰久々不得貴意御遠敷奉存候。弥七様御家内御揃御堅勝之旨珍重目出(度脱カ)奉存候。当表民部太夫以下能無異神務仕候。乍憚貴慮易思召可被下候。然ハ此度其御村衆中御参宮被成、此方へ御立寄両宮御参宮首尾能御勤目出度御下向被成候。併万端御心易得御意、何之風情茂無御座候。別而貴様ゟ被入御念被仰聞候へ共、何れ茂始而之義候へハ一種御馳走仕度奉存候得共、若き衆中段々御断故早々仕合ニ御座候。何れ茂御下向之砌ハ乍憚宜敷御取成可被下候。将亦貴様ゟ去年□□御最花白宝一対外ニ青銅四匁、助左衛門殿十助殿ゟ御上候□□致受納候。則披露仕候。弥以御祈禱可被仕懇念候。尤民部太夫ゟ以別紙可申上候得共下拙方ゟ可然様相心得候様ニ申付候。尚期後□之時

候。恐惶謹言

三月廿四日　　村松一郎兵衛

永井吉兵衛様　　政キ　花押

貴報

堀江六左衛門書状（深江吉兵衛宛）

尚々当月中比ニハ此元用事御座候。尤十五日過候へハ苦敷からす、十日比ゟ十五日迄此元憚入之事御座候間左様ニ思召可被下候。万一十日比ニ申参候ハヽ気毒ニて御座候故、乍慮外書状ニて申上候。取込罷有候而麁筆御免被遊可被下候。一筆奉啓上候。於其御地益御堅達ニて御座被遊候条恐悦奉存候。私義無異ニ罷有候。乍慮外御心安思召可被下候。然ハ先日ハ始而参上仕候所ニ御馳走ニ預リ忝仕合ニ奉存候。御礼書状にても申上度奉存候へ共、何角御無音ニ罷過申候。弥御子供様方御機嫌能御座被遊候哉御見舞も不申御無沙汰御免被遊可被下候。将又先日御書状預リ忝奉存候。如仰三月中比ニ参上申上度奉存候。私方も取込得参上不仕候所被入御念御状忝奉存候。尤当月其元様御手透之時分参上可申候哉、月末ニて御座候哉二三日前ゟ何とそ御知らせ被遊可被下候。打出へ参候義当月ハ参宮何角ニて未日限しれ不申候。御情証なから宜敷様ニ頼上奉存候。其元様御手透之

時分被為仰合、二三日前ニ御シらせ被遊可被下候。尤当月参上不仕候義にも御座候ハヽ手前手筈仕申候義ニて御座候故、乍慮外如此ニ申上候。何様御面上万々可申上所早々以上。

堀江六左衛門　花押

四月二日

深江

吉兵衛様

吉兵衛書状（卯月九日）

今日ハ雨天故御出不被下候。明日ハ天気罷候ハヽ乍御苦労御出被遊可被下と奉存候。若替儀御座候ハヽ被仰聞可被下候。為御伺如此ニ御座候。以上

深江

吉兵衛

卯月九日

上之島

重左衛門様

米印調べ等につき書状（八月廿九日）

益御勇健可被成御座珍重之御義奉賀候。然ハ一昨日ハ御入来被下寛々貴顔仕大悦奉存候。其節御談奉申上候一件ニ付、今日旦那下灘被致何分直々御談奉申上度奉存候。何卒御操合被下御出向被成下候哉、若くハ御出向難被下候へハ大平殿ニ而も差上可申哉、私も罷出申度奉存候へ共、とかく用向多込ミ入申候。乍御面倒鳥渡御返事被成下奉願上候。右御頼申上度候。以上

八月廿九日

尚此間御隠居へ御頼申上置候米印始年年号何卒御調べ被成下候様奉頼上候。尚々早々承申度奉存候。御頼奉申上候。以上

多田屋

嘉兵衛

あしや茂左衛門様

貴下用書

五一郎殿御改につき吉兵衛書状

尚々此状無滞早々御廻シ可被成候。

此間五一郎殿御改首尾能相済大慶ニ存候。就夫右之趣尼崎へ御届ケ可申候間、御書上ケ被成通御書付此方へ可被遣候。明日ニも御届可申候間早々可被遣候。其外御尋之儀ニ付替りたる儀候ハヽ是又御申越可被成候。以上

深江

五月五日　　吉兵衛

打出村ゟ山方野寄迄

夫濱方魚崎村迄

大庄屋中

永井庄左衛門宛書状（十二月一日）

尚々私シ直様参上仕候為御咄申上候ハヽた之金中も頓と不工合ニ而候間宜シく。

弥御安康可為入珍重之御儀奉存候。然ハ先日ハ御越被下御苦労千万ニ奉存候。何之風情も無之候。左様候へ共段々相談仕候。今一應樋口やへ御掛合被成下度貴公様ニ御頼申上度、何卒甚タ御多用之御中気之毒ニ奉存候へ共、一両日之内御越被下度豫奉願上候。先ツハ右申上度如斯ニ御坐候。

十二月朔日

追啓申上候。先日之八貫匁銀子之金子預ケ当卅日ニ直附御坐候所、金相場六十壱匁三分七厘ニ御坐候間、右銀子ニ而金子之直合御勘定被下御持参可被下候。先方へ相渡シ申度候間御滞なから申上候。左様ニ御通知可被下候。

十二月朔日　　七五

山之

深江　　佐内

永井庄左衛門様

大急用書

某書状（断簡）

昨日御苦労御出被下候処、早々御帰リ残多奉存候。
最早今日御発足可被遊与奉察候。

深江吉兵衛につき書状（九月廿三日）

先刻ハ御太義ニ御出被遊候所早々之仕合残念奉存候。就夫深江吉兵衛様御状直ニ八幡村へ持参致させ候所、平次右衛門様八幡へ御越無御座候由ニ而御状返来仕候。則其元へ持参させ申候様子御付紙被遊順々御戻シ可被成候。為其如此ニ御座候。以上

九月廿三日　　石屋村庄屋
　　李兵衛

郡家村庄屋
利左衛門様

口上

深江吉兵衛様ゟ之御状此通リニ申来リ候間、御泊リ迄片時御急御戻シ可被成候。為其如斯ニ御座候。以上

九月廿三日　　郡家村庄屋
　　利左衛門

村々御庄屋中様

本庄村史資料

永井正治家文書（四）

一九八八年二月二十日発行

編著者　本庄村史編纂委員会

発行所　神戸深江生活文化史料館
神戸市東灘区深江本町三ー五ー七

印刷所　印刷ショップ　フタバ